20　　の水心

文法　助動詞⑤　す・さす・しむ

読解　具体的内容をつかむ

新傾向　同じ話題の資料との相違点をつかむ

は能書の㋐聞こえありけり。関東へりて将軍家のにて物書きけるが、関東は水しくて筆の勢ひ伸びがたき㋑を言ひければ、「①都にてはいかなる水をもて書くにや」と問はⓐせふ時、「京の柳の水こそ軽くてしき」とす。②将軍あやしとし召して、みそかに都へ人をせ、柳の水をに入れて取りらⓑしめ、重ねて昭乗を召し、試みられけるに、筆をりてにさしし、いささか文字を書きけるが、やがて筆を止め、に向かひて、「これは、軽くてよき水なり。京にて用ゐる柳の水に変はらず」と申しけるにぞ③大いに驚きけるとなん。

語注

柳＝京都の地名。

基本古語

みそかなり（形動ナリ）＝こっそり。ひそかだ。

いささか（副）＝少し。わずかばかり。

【原文】

　昭乗は能書の聞こえありけり。関東へ下りて将軍家の御前にて物書きけるが、関東は水悪しくて筆の勢ひ伸びがたき由を言ひければ、「都にてはいかなる水をもて書くにや」と問はせ給ふ時、「京の柳の水こそ軽くて宜しき」と申す。将軍あやしと思し召して、みそかに都へ人を上せ、柳の水を瓶に入れて取り下らしめ、重ねて昭乗を召し、試みられけるに、筆を把りて硯にさし浸し、いささか文字を書きけるが、やがて筆を止め、傍に向かひて、「これは、軽くてよき水なり。京にて用ゐる柳の水に変はらず」と申しけるにぞ皆人大いに驚きけるとなん。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

文字上手として名高い［　　　　］が［　　　　］の前で［　　　　］の水は書きにくいと言った。［　　　　］は昭乗が評価する［　　　　　　　　　　］をひそかに用意し試したところ、彼はその水が［　　　　　　］と同じくらいよい水だと即座に言った。人々はその様子に大変驚いた。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ。〈3点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕

㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ・ⓑの助動詞の文法的意味と活用形を答えよ。〈3点×2〉

ⓐ〔　　　　〕〔　　　　形〕

ⓑ〔　　　　〕〔　　　　形〕

問四　［チェック問題］助動詞⑤　す・さす・しむ

(1)　次の活用表を完成させよ。〈1点×4〉

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| サ変動詞  「す」 | しむ | さす | す |  |
|  |  |  |  | 未然形 |
|  |  |  |  | 連用形 |
|  |  |  |  | 終止形 |
|  |  |  |  | 連体形 |
|  |  |  |  | 已然形 |
|  |  |  |  | 命令形 |
|  |  |  |  | 接続 |

(2)　 次の傍線部の説明として適当なものを選べ。〈2点×4〉

1　狩りはねむごろにもせで、酒を飲みつつ、…（伊勢物語）

2　が声も聞こえざりせば恋ひて死なまし（万葉集）

3　言ひつること、いま一かへり我に言ひて聞かせよ。（更級日記）

4　を高く上げたれば、笑はせ給ふ。（枕草子）

ア　過去の助動詞　　　　　イ　尊敬の助動詞

ウ　サ行変格活用の動詞　　エ　使役の助動詞

1〔　　　〕　2〔　　　〕　3〔　　　〕　4〔　　　〕

問五　傍線部①の現代語訳として最も適当なものを選べ。〈4点〉

ア　都ではどこの水を用いて書くのが一般的なのか。

イ　都では水をどのように使って書くのだろうか。

ウ　都ではどのような水を用いて書くのであろうか。

エ　都ではどうして水を使って書くことなどしようか。

〔　　　〕

問六　傍線部②について、

1. この時の「将軍」の心情として最も適当なものを選べ。〈5点〉

ア　昭乗が本当に水の違いを判別できるかどうかいぶかしんでいる。

イ　昭乗の書家としての腕前が本物かどうか疑念を抱いている。

ウ　昭乗の言うとおり柳の水が優れているかどうか半信半疑でいる。

エ　昭乗が関東の水を悪いと酷評したことを不服に思っている。

〔　　　〕

1. 「将軍」はどのような方法で「昭乗」の言葉の真偽を確かめ

ようとしたのか。解答欄に合うように、三十字以内で答えよ。〈8点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕という方法。

問七　傍線部③とあるが、「皆人」はなぜ驚いたのか。最も適当なものを選べ。〈5点〉

ア　どんな水でも上手な文字が書けることを、昭乗が証明したから。

イ　瓶に入った水が柳の水であることを、昭乗が即座に見破ったから。

ウ　将軍の嫌がらせに屈せず、昭乗が平然とその場を切り抜けたから。

エ　少し文字を書いただけで、昭乗がすぐに水の良さを見抜いたから。

〔　　　〕

問八　次の【資料】は『落栗物語』と同時代に、文人の柳沢によって書かれた『ひとりね』の一節である。書における水について、それぞれがどのように述べているか。その説明として最も適当なものを選べ。〈4点〉

【資料】

　墨を用ゐる事、よくよく心を尽くべし。墨の良ししある中にも、用ゐやうにて良き墨も悪しくなりぬべし。水入れに一夜を過ぎぬる水を置きて、それにてる事悪しきなり。墨の色を損ずるなり。水は新しく朝々みて用ゐるべし。用ゐる時に、羽二重にてしてよきなり。

（注）　羽二重＝薄くなめらかでつやのある絹織物。

ア　『落栗物語』では昭乗が特定の水しか使わなかったことが描かれ、『ひとりね』では少しでも新鮮な水を使うことが大切だと述べられている。

イ　『落栗物語』では昭乗が水にこだわったことが描かれ、『ひとりね』では墨の種類に応じて違う土地の水を使い分けることが大切だと述べられている。

ウ　『落栗物語』では昭乗の特定の地域の水への好みが描かれ、『ひとりね』では墨を磨るその日の朝に汲んだ水を用いることが大切だと述べられている。

エ　『落栗物語』では昭乗の用いる水の種類へのこだわりが描かれ、『ひとりね』では求める墨の色に応じて水を汲む時間帯を変えることが大切だと述べられている。

〔　　　〕

【解答】

問一　昭乗／将軍／関東／将軍／京の柳の水／柳の水

問二　㋐＝評判　㋑＝事情・旨〈3点×2〉

問三　ⓐ＝尊敬・連用形　ⓑ＝使役・連用形〈3点×2〉

問四　(1)〈1点×4〉

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| サ変  「す」 | しむ | さす | す |  |
| せ | しめ | させ | せ | 未然形 |
| し | しめ | させ | せ | 連用形 |
| す | しむ | さす | す | 終止形 |
| する | しむる | さする | する | 連体形 |
| すれ | しむれ | さすれ | すれ | 已然形 |
| せよ | しめよ | させよ | せよ | 命令形 |
|  | 未然形 | 右以外の未然形 | 四段・ナ変・ラ変の未然形 | 接続 |

(2)　1＝ウ　2＝ア　3＝エ　4＝イ〈2点×4〉

問五　ウ〈4点〉

問六　(1)　ア〈5点〉

(2)　京からこっそり取り寄せた水でふたたび昭乗に文字を書かせる（という方法。）（28字）〈8点〉

問七　エ〈5点〉

問八　ウ〈4点〉

【現代語訳】

昭乗は文字を上手に書く人という評判があった。（昭乗が）関東へ下向して将軍家の御前で物〔＝文字〕を書いたが、関東は水が悪くて筆の勢いが伸びづらい旨を（昭乗が）言ったところ、「都ではどのような水を用いて（文字を）書くのであろうか」と（将軍が）お尋ねになる時、（昭乗は）「京の柳の水が軽くて（文字を書くのに）適当である」と申し上げる。将軍は疑わしいとお思いになって、こっそりと都へ使者を上京させ、（京都の）柳の水を瓶に採水して（関東へ）下向させ、再び昭乗をお呼び寄せになり、（水の違いがわかるか）お試しになったところ、（昭乗が）筆をとって硯に浸し、ちょっと文字を書いたが、すぐに筆を（動かすのを）やめ、傍ら（にいる人）に向かって、「これは、軽くてよい水である。京で（文字を書くのに）使う柳の水と変わらない」と申し上げたのでその場の人は皆たいそう驚いたということだ。

【資料】現代語訳

墨を使用する際には、念には念を入れて気を配らなければならない。墨にも良い悪いがある中でも、使用方法によって良い墨もきっと悪くなるに違いない。水をいれる容器に一晩経過した水をいれて、その水で（墨を）磨ることは悪いことである。墨の色合いを損ねてしまうのだ。水は新しいものを毎朝汲んで使用するのがよい。使用する際には、薄くなめらかでつやのある絹織物で濾して使用するのがよい。

【補充問題】

問１　次の動作主を答えよ。

①「言ひければ」（２行目）

②「問はせ給ふ」（２〜3行目）

③「試みられける」（４行目）

④「申しける」（６行目）

問２　「にや」（２行目）の後ろに省略されている言葉を答えよ。

問３　「試みられけるに」（４行目）とあるが、将軍はどのような点を確かめようとしたのか。三十字以内で答えよ。

【補充問題解答】

問１　①昭乗　②将軍　③将軍　④昭乗

問２　あらん

問３　文字を書く際の水の違いを昭乗がわかっているかどうかという点。（30字）